

【 短 歌 。 俳 句 。 川 柳 】

本誌編集室担当

短 歌

古稀迎へ来し方のこと考える

これまで良くぞ達者でいたと

●宮古市 太田屋滋

炎天下草刈り集草六時間

精根尽きたがあしたも頑張る

●富谷市 佐藤英克

いつの間にしわしわだらけの七十歳の手

それでも飽きずに鎌を握りて

●富谷市 菅井初江

草加宿芭蕉の傍に曾良はたち

奥州路へと旅立ちの朝

●松戸市 秋元輝美

二年ぶり仲間が集う居酒屋は

アクリル板の監視で酔えず

●印西市 山田 明

逆いて瀬音煙く若鮎を

心ときめき静か眺める

●小郡市 尾花日出成

梅雨明けの蔓先近く学童路

●野洲市 若松能夫

俳 句

広大なひまわり畑に愁い帯び

●小山市 塚野 京

万緑のシャワー浴びたくひき返す

●小山市 原田利江

薹微活けてシルバーカフェのポランテア

●本庄市 長谷川千鶴子

つやつやの鉢植えの茄子今朝もぎる

●草加市 長谷部禎子

暑き杜近的のパシツ腕はマル

●戸田市 稲田隆博

悉く予定のずれて夏の風邪

●戸田市 篠崎志津子

総会を終へしみじみと酌むビール

●東京都練馬区 山口昭義

温暖化気温の記録金メダル

●東京都葛飾区 東海洋一

店頭の赤紫蘇匂う束の山

●佐世保市 阿部淑子

夏が来て幼子のよう老いの父

●武蔵村山市 原野晴光

野に咲きしひときは目立つハナミズキ

●平塚市 田中博由

城跡に佇てば満目緑さす

●長岡市 近藤 博

新緑のカーテン続く木曾の谷

●塩尻市 大家協治

野茨の花のかたまり刺あおく

●塩尻市 奥原光夫

食誘う木曾の一品朴葉餅

●塩尻市 小野正平

宿坊の大山蓮華りりと咲き

●塩尻市 町田まさ子

花火後残る若人去る老人

●可見市 井戸和秋

戻り梅雨暑さ収めてやまぼうし

●西尾市 村井ひろみ

当てもなく店に入れば無駄遣い

●石巻市 亀山申一